

# 令和2年度第2回奈良市アートプロジェクト実行委員会 会議録

開催日時	令和3年2月24日（水） 午後2時から3時半まで	
開催場所	奈良市役所中央棟5階キャンベラの間	
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 (1) 委員長専決事項報告 (2) 令和2年度事業報告について (3) 奈良市アートプロジェクト基本構想について (4) 令和3年度事業計画（案）について 4 閉会	
出席者	委員	仲川委員長、※佐々木副委員長、※青木委員、※萩原委員、 立石教育部長（北谷委員代理） 【計5人出席，※内リモート3人】
	事務局	深村市民部長（事務局長）、中川市民部次長（事務局次長）、 池田文化振興課長、吉川主査、荒益係長、栗原（以上文化振興課、事務局）
開催形態	公開（傍聴人無し）	
決定事項	●全議案について 承認された。	
担当課	奈良市アートプロジェクト実行委員会事務局（市民部文化振興課）	

## 議事の内容

1 開会
2 委員長挨拶
3 議事
(1) 委員長専決事項報告（会則8条の2）、および代理出席の会則改訂（会則7条の6） ⇒承認
(2) 令和2年度事業報告について
事務局説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クリエイションプログラムとして美術・演劇2つのメイン企画、ラーニングプログラムとしてグリーン・マウンテン・カレッジ(GMC)、平田オリザ氏のワークショップを実施したことについて、事務局より報告をおこなった。</li> <li>・ 総括として、常に感染症への対応を迫られながらの実施となったが、一方オンラインでの楽しみ方が充実できて、参加方法の多様化という点は今後につながるものであると報告した。</li> </ul>
委員意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続することで定着してきている感じを受けている。コロナ禍の中でも参加者が思ったほど減っていない</li> </ul>

い。例えば GMC も写真を見て、学びたいという人たちが参加していた気がした。少しずつ場として成長していている感じを受ける。

- ・ 古都祝奈良が段々皆の中に浸透していると感じている。資料を見て、石の菓子店というのは斬新で面白い取り組みだと思う。
- ・ 2月22日、2014年から7年間連続開催してきた東アジア文化都市事業の成果とこれからの課題についてシンポジウムを行なった。コロナでかなり国際交流が難しいが、オンラインでどんなことができるのかそれぞれが模索している。そんなにお金を掛けなくても出来ることを、これからもぜひ考えて欲しい。
- ・ コロナの危機も、ヘルスの危機と経済の危機があるが、危機に伴って起こる様々なコンフリクト（\* conflict 対立・あつれき）はあり、これが東アジアの危機にも繋がりがねない要素も多分に孕んでいると思う。コロナはもはや言い訳にならないという気概で物事に当たっていくのが大事と感じている。その辺りはアートの領域なら尚更やり易いのではないかと思う。

### (3) 奈良市アートプロジェクト基本構想について

#### 事務局説明

- ・ 基本構想について、事業の趣旨・位置づけを明確にするため、見直しを行いたい。
- ・ 「1. 構想趣旨」東アジア文化都市の成果を引き継ぎ、奈良市でアート事業を展開することで、現代社会が持つ様々な課題や事柄を掘り下げて考え、奈良の新たな価値の創造につなげようとするもの。特に私たちの暮らしの中でアートを身近なものとして捉えることから始めたいと考える。奈良で少しずつ進む創造的な取り組みを、日常的な当たりまえの状態にしていく段階と考える。  
本事業により期待されることは5つ。これらを目指し、個々の事業を積み上げていきたい。
  - (1) 市民が「創造する主体」となる機会の拡充
  - (2) 主体的に文化芸術に触れる場の提供
  - (3) 奈良の文化的魅力の創造と発信
  - (4) 次代の文化芸術を担う人材の育成
  - (5) 芸・産官学との連携による地域内の繋がりの広がり・深まり
- ・ 「2. 事業概要」次年度以降、クリエイションプログラム「美術」「演劇」を隔年で実施して、より大型の企画を展開したい。ラーニングプログラムでは学びの場に加えて、地域とアートを繋ぐコーディネーター的人材の育成も想定。
- ・ 「3. 実施体制」各プログラムについてワーキンググループを必要に応じて設け、地域の芸術関係者や他分野へと影響を広げていきたい。

#### 委員質問

- ・ 基本構想が第4版になった違いの解説を加えてもらいたい。

#### 事務局

- ・ 事業イメージを、前は「社会課題とアート」としていたが今回「暮らしとアート」とした。身近な暮らしとアートの中から社会課題を考える、というところが一番大きな変更点。今回「食」をテーマとしたことで、色んな切り口で考えることができた。もっとアートを身近に感じていただくためにも、新しくプロジェクトが進展していく上で大切なテーマであると考えた。

## 委員意見

- ・ 社会課題という日本人には遠い存在を身近に感じさせるのがアートの役割であったとすると、(テーマが)身近であるメリット、デメリットを天秤にかけることも考える要素かと思う。ご意見をうかがいたい。
- ・ 美術と演劇を隔年として予算を集中し規模を大きくしてやるという提案、これはこれで良いと思う。「真夏の夜の夢」をなぞっている青少年演劇「奈良の夜の夢」など、奈良と奈良の暮らし、そういう地域性を前に出していくのは面白いという感想を持っている。
- ・ いつもならまちセンター芝生広場などで行っているが、たき火など、やっていることが情報としてなかなか入って来ない。町の人たちが何気なく歩いている時に行き会える、そういう場所で出来ると良いと思う。
- ・ ミレニアム世代以降、食が文化の中で占める割合が大きくなっている。生活の中で一番身近なものは食。石と菓子の交換は、アートプロジェクトでありながら同時に食の問題も捉え直すことも出来る。生活の中で最も身近に感じているものと、アートをうまく結びつくような具体的なプロジェクトが出来ると、更に来年以降面白くなると思う。
- ・ 国連が掲げている SDGs はもともと地球環境の維持という大きなテーマだったが、現在、食も問題を投げかけられている。食文化という多様性の話の一方で、環境問題だとか災害だとか気候変動だとか、そういった問題の入り口にも食があると捉え直すこともできる。所得格差が大きく、飽食の一方で、ベーシックニーズを維持できない問題もある。それらを橋渡し出来るような食の在り方もある。今年の東アジア文化都市北九州のテーマが ART for SDGs。背後にある深い問題に接近できるものになればと思う。
- ・ 食は色々な問題の入り口になるし、若い人が関心を持つ裏側には飽食の時代が終わるのではないかという危機意識がある気がする。食糧危機や気候変動が私たちの食卓で感じられる時代になっている。食を通じて社会課題を気付かせる、多分一番おしゃれて皆が感じやすいやり方がひょっとしたらアートなのかもしれない。食の問題を身近に感じながら、決まりきった社会課題の解決ではなく、アートを通じたもっとしなやかな解決の仕方や切り口が見えてくれば素晴らしい。
- ・ 「動く石」に関しては、食と石がこういう形で繋がってくるのだなと良くわかって面白かったが、漠然と食とアートと言われると、どの辺りで繋がるのか解らない。これから色々考えていかないといけない問題かなと感じている。
- ・ ワーキンググループのところ、プログラムディレクターについては既存の方になるのか？  
(事務局回答)  
田上豊氏に引き続きお願いしたいと思っている。地域コーディネーターについては一般社団法人はなまるを中心として、地域に根差して活躍されている方々の育成などに取り組むことができればと考えている。

### (4) 令和3年度事業計画(案)について

#### 事務局

- ・ 令和3年度は「演劇」を中心に行いたい。新規企画として「暮らしとアート」をキーワードにしたラーニングプログラムを実施する。
- ・ クリエイションプログラムは演劇分野の3つの企画を行う。プログラムディレクターは田上豊氏。新規企画としては国内外で活躍するプロの劇団の公演。候補は平田オリザ氏主宰の青年団。合わせて市民が主体的に参加できるワークショップも実施できればと思う。
- ・ ラーニングプログラムは2つのプログラムを展開。小山田徹氏のグリーン・マウンテン・カレッジを継続実施。新規として「アートとまちづくり」「暮らしとアート」をテーマにしたセミナーあるいはワークショップの実施を検討。

## 委員意見

- ・ クリエイションプログラムとラーニングプログラムの関係について。クリエイションした成果を次年度のラーニングにつなげる、例えば青少年の文化体験が翌年、作家の作品を見る体験で高められるなど年度をクロスさせた関係を有機的に出来たら素晴らしいと思う。そうなるとまさに、創造する市民の育成に繋がる。石のプログラムのように、奈良の新しい発見がプログラムを通じて出来たら良い。作家から、またはGMCの中から新しい発見が毎年見えてくると、新しいテーマに繋がって素晴らしいと思う。
- ・ プログラム間の相互関連性とか、それがどう折り重なって次に発展していくか。一つ気になるのはディレクターを決めてしまうと特定の劇団や表現者に固定され、新しい発見、新しい手法のチャレンジというのが乏しくなってしまう恐れがあるのではないかと気になる。
- ・ 青少年演劇で子ども達が一所懸命やっているのを見て感動した。令和2年は大人の方も一緒に演劇をされたと聞いて、演劇好きの市民にも門戸を開いて出来るのは良いなと思った。子ども達には奈良を作ってもらわなければいけないので頑張っていたきたい。プロ劇団の公演も楽しみと思う。プロの洗練された舞台も勉強になる。
- ・ ならまちセンターの創造発信拠点機能強化のところ。日常的にアートに触れられるような動かし方が出来ないかと考えた時に、プログラムディレクターは常駐ではないが、地域コーディネーターは地元の方なので常駐可能性がある。色々なジャンルのアート情報がここに行けば手に入る、例えば奈良に個人で滞在するアーティストが交流する、そういうネットワークのハブみたいなものに出来ないか。奈良市のアートセンターであると同時に県全体のネットワークのハブであるような広がりあるセンター化構想を一步前へ進める。
- ・ 青年団の公演をならまちセンターの舞台でやるとのこと、アートセンター化に向けた第一ステップとして今年色々な事業が集中的に行われるのは良いと思う。
- ・ ならまちセンターのアートセンター化は基本その方向性で発案をしているが、市民利用とのバランスをどう取るかを行政は先に考えてしまい、賛成・反対両方いるので、打ち出しに腰が引けているのだと思う。あの建物を誰がどういう目的で運営していくか、どこまでを行政がするのか、指定管理者なのか、芸術監督なのか、外部の高い専門性を持った人にある程度任せるのか、考える余地はあると思う。
- ・ (プログラムを)一年おきで行った場合、これまでは青少年演劇の参加者が一部残って次年度の核になる場所があったと思うが、その部分が分断される難しさがあるのではないかと心配する。演劇・美術・演劇・美術…といつも同じ規模で発案するパターンになると多分尻すぼみになっていくので、2016年の平城宮跡の野外演劇のような、場所とか規模感も毎回ぶっ壊して作り直すようにしないと、パターン処理化をしてしまい、最初に起こした情熱とか、構想力みたいなものがどんどんぼけていく危険性が行政にはあるので、余りフレーム化、パターン化をしたくないとの個人的な感想を持つ。
- ・ アートセンター化は非常に関心があるが、一般利用があり、図書館も入っている建物全体をいきなり変えるのは難しい。だが機能的に、今ならオンラインで You tube を繋ぎ世界的なアート活動が見られるコーナーを作るなど、あそこに行くとアート情報に触れられると市民が感じ取れるような取り組みを、予算のあまりかからない範囲で、少しずつやったらいい。古い寺社をまわるのも楽しいが、奈良で新しいアートに触れたい方は、まずアートセンターのそのコーナーに行く。それを上手くやっていただけたらと思う。
- ・ 一気に看板を付け替えるのではなく、今の機能の範囲の中で、予算を掛けず、アートを意識した色々な仕掛けはやっていけるだろうと。そうなった時にあの施設の中に、常勤ではなくてもアートディレクター的な人が恒常的に関わることも、品質というか、維持していく上でも大事かと思う。今、図書館と行政サービスと貸館と3つまたがっていて、一階のレストランも含めてとなるので、それらを横ぐしを挿してディレクション出来る人を、非常勤的にでも入れるのはありかと思う。

- ・ 全国の創造都市での拠点施設の作り方はそれぞれ特徴がある。例えば金沢だと 2004 年にオープンした 21 世紀美術館のマスタープランでは、伝統というものからは一旦離れて、1984 年以降の現代アートをゼロからやるとした。当時オープンしてすごく利用が多かった金沢市民芸術村のような、誰でも使えるといった機能を現代アートとくっつけて、市民が使えるスペースやエキジビッドスペースを取り込んだ。デートに行っても楽しめるとか、市民のアートグループが発表会を出来るとか、それにはやはり食が大事で、おしゃれなレストランと前田藩由来の茶室がある。
- ・ 京都の場合は、2000 年に明倫小学校の跡地を京都芸術センターにした。明治時代に小学校を作るのに地元の人たちがお金を出し合っていることもあり、校庭は町内会のゲートボール場。茶室の和室があり、そこは市民の企画と両方を調整する形にしてあって、やっぱり作り方としては地域のアートセンター。暮らしとアートという意味が上手く融合してくる。
- ・ 神戸市は、ユネスコ創造都市になった時にデザインで認定を受けたので、デザインを中心としたセンターとし、かつての生糸検査所に **KIITO** という名前のデザイン・クリエイティブセンターを置いた。非常に大きなところで全体をまだ使いきれていない。例えばデザイン系の小さなビジネス・インキュベーション（※創業・新事業創出支援）の機能を持たせたり、次年度からは使っていなかったスペースに図書館が移ってくる。デザインアートセンタープラス図書館という形。やっぱりアートだけではなく、アートを通して色んな要素が入って来た地域の文化拠点という感じになっている。何かそういった拠点的施設といった形を検討されてみてはどうか。それぞれユニークな施設になってきていると思う。

#### 4 閉会